

I 学習内容の改善・充実

1 語彙指導の改善・充実「意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や語句の使い方に対する認識を深め、語彙の質を高める。」

2 情報の扱い方に関する指導の改善・充実「様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。一方で、「教科書の文章を読み解けていない」現状があり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようすることは喫緊の課題である。」

3 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視（下図 参照のこと）

4 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

5 漢字指導の改善・充実

II 思考力・判断力・表現力等 「書くこと」における学習過程

I 題材の設定、情報の収集、内容の検討

1 相手や目的を意識して*
1. 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして*2、伝えたいことを明確にすること。

*1 何のために
 誰に向けて
(特定 or 不特定多数の人)

*2 集めた材料を共通点や相違点に着目しながら比べたり、共通する性質に基づいて分けたりして、伝えたい内容が明確になるよう書く材料を整理すること。

II 構成の検討

2 書く内容の中心点を明確*1にし、内容のまとまりで段落*2をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える*3こと。

*1 文章の構成を考えるにあたり、書くこととしている材料の中から、一つに絞ること。(中心となる事柄やそれに関わる他の書きたい事柄が明らかになる。)

*2 段落には改行によって示されるいくつかの文のまとまりである形式段落と、その形式段落のいくつかの意味のつながりの上でひとまとまりになった意味段落とがある。

*3 冒頭部－展開部－終結部等の文章展開を考える。

III 考えの形成・記述

3 自分の考えとそれを支える理由*1や事例*2との関係を明確にして書き表し方を工夫すること。

*1 考えを支える理由を記述する際には、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」など、理由を示すことを明確にする表現を用いること。

*2 事例とは書き手の考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容のこと。考えを支える事例を記述する際には、「例えば～」、「事例を挙げると」、「～などがそれに当たる」などの表現を用いること。

IV 推敲

4 間違いを正したり*1、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したり*2して、文や文章を整えること。

*1 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の明確さ、長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方のほかに、敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方などに注意すること。

*2 書く相手や目的に照らして、構成や書き表し方が適切か確かめること。

* 児童自身が間違いを正したり、表現を書き直したりすることによって整った文章になることが実感できるように、下書きと推敲後の文章を比較させること。

V 共有

5 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い*1、自分の文章のよいところを見付ける*2こと。

*1 互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合うこと。

*2 記述した内容以外にも、相手について配慮したことや、記述の仕方などが工夫したこと、なぜそのように考えに至ったのかについてのきっかけなどを共有すること。

言語活動例

◇ 調べたことをまとめ*1て、報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く*2活動

◇ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動

◇ 詩や物語をつくるなど感じたことや想像したことを書く活動

*1 報告する文章の特徴に基づいて、調査の目的や方法、調査結果とそこから考えたことなどを明確に書くこと。

*2 自分の考えと、それを支える理由や事例としての事実との関係を明確にして書くこと。

III 思考力・判断力・表現力等 「読むこと」における学習過程

I 構造と内容の把握

1 段落相互の関係*に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

* 考えとその事例、結論とその理由といった関係などのこと。書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか、どのような事例によって具体化されているのか、を捉えること

II 精査・解釈

2 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約すること*。

* 文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめること。その際、内容の中心となる語や文を選ぶこと。

III 考えの形成

3 文章を読んで理解したことに基づいて*1、感想や考えをもつ*2こと。

*1 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基にすること。

*2 自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成すること。疑問点や更に知りたい点を見出す。

IV 共有

4 文章を読んで感じたことや考えたこと*1を共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く*2こと。

*1 文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、感想をもったり考えたりすること。これらの感想や考えは、同じ文章を読んでも文章のどこに着目するか、どのような思考や感情、経験と結び付けて読むかによって、一人一人に違いが出てくる。

*2 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと、互いに感じたこと考えたことを理解し、他者の感じ方などのよさに気付くこと。